

防犯カメラシステムの商品化支援

本田アドバイザーによる支援

特許流通アドバイザーの紹介で
企業訪問したことがキッカケ

特許出願と権利化 に向けたサポート

- ◆ 知的財産権の活用戦略を説明
- ◆ 中小企業向け支援制度の利用の提案
- ◆ 特許電子図書館を用いた先行技術調査の支援
- ◆ 発明の把握と明細書作成の支援
- ◆ 早期審査による権利化の指導

システム・プロダクト株式会社

オリジナル製品の開発に 産学官連携で取組中

自社技術の信用性を高めるため、積極的に特許を取得したい！
開発者の知財スキルアップを図りたい！

課題は…

- ◆ 知財活用戦略
- ◆ 先行技術調査
- ◆ 明細書の作成

特許情報活用による成果

先行技術調査から出願書類作成までほぼ自社内で行ない、
特許4件出願、内1件登録

特許 3994416 号
特願 2006-320114 号
特願 2006-329135 号
特願 2007-239384 号

知財活用が社内
でできる体制を構築



この支援によって開発・販売された商品

- 商品名「エレベーターの見張り番」
エレベーター内の暴力行為を自動検知して通報、利用者のトラブル、動物の侵入対策にも有効
- 商品名「お店の見張り番」
コンビニ等の店舗で挙動不審な人を自動検知して通報、万引き等の防犯にも有効

支援先企業の概要

- 会社名 システム・プロダクト株式会社
- 住所 茨城県ひたちなか市田彦
- 資本金 1,300 万円
- ホームページ <http://www.e-spc.co.jp/>
- 代表取締役会長 高木 秀浩
- 設立 1973 年

本田 卓(茨城県知的所有権センター)特許情報活用支援アドバイザーの一言

近年、オリジナルな自社製品の開発に積極的に取り組まれていました。本商品は得意な画像処理技術を応用した防犯カメラシステムで、茨城大学及び茨城県工業技術センターとの連携で開発されたものです。出品したセキュリティ展示会で大きな反響があり、テレビ・新聞等でも取り上げられました。会社幹部の強い意気込みのもと、若手開発者が終始熱心に取り組まれたことが、特許知識がほとんどない状況からでも自己出願と権利化に漕ぎ着けた大きな要因であったと思います。



平成20年1月現在